

第 27 回小田原市新しい学校づくり検討委員会の開催結果

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 日 時 | 令和 8 年 3 月 24 日（火）14:00～15:30 |
| 2 | 場 所 | 小田原市役所 3 階 全員協議会室 |
| 3 | 出席委員 | 9 名（委員名簿順）
遠藤新委員、久田由佳委員、柳澤要委員、木村秀昭委員、
中谷彰吾委員、石井美佐子委員、富田雅浩委員、
木村元彦委員、山本加世委員 |
| 4 | 欠席委員 | 内山絵美子委員、竹内昌義臨時委員、 |
| 5 | 出席職員 | 柳下教育長、菊地教育部部長、諏訪部教育部副部長、
岡田教育部副部長、安藤教育総務課長、
久保学校施設担当課長、吉澤保健給食課長、
松澤教育指導課長、松室教職員担当課長、
橋本教育相談担当課長、三浦教育総務課総務係長
村田教育総務課総務係長 |
| 6 | 傍 聴 者 | 0 名 |
| 7 | 内 容 | （1） 開会
（2） 議事
ア 基本計画（答申案）ほかについて
イ 今後のスケジュール等について
（3） 閉会 |
| 8 | 配布資料 | 資料 1-1 基本計画（答申案）に対する主な意見
資料 1-2 新しい学校づくり推進基本計画（答申案） |

会議録

○事務局（岡田教育部副部長）

ただいまから第27回小田原市新しい学校づくり検討委員会を始めさせていただきます。議事に入るまでの間、教育委員会事務局より進行を務めさせていただきます。本会議につきましては、お手元の会議次第により進めさせていただきます。

配布資料の確認をさせていただきます。次第、委員名簿、資料1-1「基本計画（答申案）に対する主な意見」、資料1-2「新しい学校づくり推進基本計画（答申案）」となっております。

本委員会の会議につきましては、委員及び臨時委員の総数11名のうち、現在9名がご出席を頂いております。これにより、委員会規則第5条第2項の定足数に達しており、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

ここからは柳澤委員長に議事の進行をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○柳澤委員長

よろしくお願いいたします。

それではこれより議事を進めてまいりたいと思います。まず本日の委員会についてお諮りします。

本日の委員会は小田原市情報公開条例第8条第3号に規定されている審議に関する情報であり、公にすることにより率直な意見の交換、もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれる恐れ等があることから、同条例第24条第2号の規定に基づき非公開としたいと思います。ご異議はございませんでしょうか。

意見なし

○柳澤委員長

異議なしということで、本委員会は非公開とすることにします。

それでは議事（1）基本計画（答申案）に対する主な意見について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

前回いただいたご意見を踏まえ、答申案について加筆修正を行いました。なお、資料1-1については、前回委員会での主な意見をまとめたものでございます。一番右の列は、ご意見を今回どのように反映させたかをまとめております。

それでは、資料1-2をご覧ください。主な変更点とともに、改めて、各章の概要をご説明します。

1ページをご覧ください。第1章として、新しい学校づくり推進事業の主旨、基

本計画策定の目的と検討経過等についてまとめております。2 ページにありますとおり、児童生徒数の減少と学校施設の老朽化を背景に、学校をこれまでと同じフルスペックで維持・更新していくことは非常に難しいため、新しい学校づくりは、こどもたち一人ひとりの学びと育ちを支える環境を将来にわたって維持・充実させるため、学校の規模や配置を含めた教育環境のあり方を総合的に再設計する取組です。

4 ページから 19 ページは、第 2 章として、教育や学校を取り巻く現状と課題をまとめております。

9 ページをご覧ください。児童生徒の多様性が拡大している、という観点から、標題をはじめとして、単語や表現の精査を行っております。

19 ページをご覧ください。第 2 章のまとめと、なぜ「新しい学校づくり」が必要かについてまとめております。児童生徒数の減少と施設の老朽化などの現在進行形の課題、こどもたちの多様性の拡大や求められる学びの変化などの社会の変化や要請に対して、人や組織を含めた学校運営の仕組みそのものが従来のままでは成り立たなくなっており、教育の質の向上を実現することも難しくなっています。新しい学校づくりは、こうした教育環境や社会情勢の変化を前向きに捉え、従来の学校運営の仕組みの見直しと、限られた財源や資源を有効に活用していくことで、将来にわたって教育の質を確保し、さらに高めていくために必要な取組です。

20 ページから 34 ページは、第 3 章として、「新しい学校づくり」で進める 4 つの学びを支える「仕組み」と「環境」の再設計等についてまとめております。

23 ページをご覧ください。小中一貫教育のカリキュラムイメージは、義務教育学校のような見え方にならないよう、構成等を修正しております。24 ページは、小中一貫教育で行われる学びや活動のイメージをイラストにまとめました。

27 ページをご覧ください。最適化によるスケールメリットは、ご意見を踏まえ内容や構成を精査、修正しました。28 ページは、学校と地域との共創のイメージを修正して掲載しております。

32 ページから 34 ページにかけては、まとめとして、これらの取組を通して、学校がどのように変わるのか、ということについて、イラスト等でまとめております。

「新しい学校づくり」は、第 2 章で示した課題等により、今のままの学校や学びを支える仕組みでは成り立たなくなることから、こどもたちの学びと育ちを、時代にあった「仕組み」と「環境」で支え、たくさんの友だちや大人と関わりながら未来を生き抜く力を育む「みんなの学びの場」を、関わる人たちとともに作りなおしていく取組です。そして、「新しい学校づくり」で学校がどう変わるか、については、記載の 5 つの項目に整理し、次ページ以降、学びや活動のイメージをイラストにして整理しております。このようなイメージの部分を、地域等への説明に活用していくことを想定しております。

35 ページから 51 ページは、第 4 章として学校配置案をまとめております。大きな変更はございませんが、4 ページの概要について、掲載項目を精査、修正しております。

52 ページから 61 ページは、第 5 章として新しい学校づくりに係るイニシャルコスト、ランニングコスト、財源についてまとめております。基本的な考え方に変更はありませんが、グラフや図表について、見やすく、伝わりやすくなるよう修正を行っております。

62 ページから 70 ページは、第 6 章として、地域との検討や今後の庁内検討等に関するスケジュールをまとめております。内容に大きな変更はございませんが、65 ページに、地域との検討において大きな論点となることが想定される通学について、どのような検討手法や対応策が考えられるか、また町田市で導入している通学の負担軽減の取組である「荷物らくらく登校」の概要を追加しております。

71 ページ、72 ページは、付帯意見です。前回委員会のご意見を踏まえ、項目ごとに見出しを付すとともに、文言等精査を行っております。

最後に、答申手交のスケジュールについてご説明いたします。本日の委員会において答申案が確定しましたら、3 月 30 日に、内山副委員長にご出席いただき、答申の手交を行う予定です。その後のスケジュールにつきましては、後ほど改めてご説明いたします。

説明は以上です。

○柳澤委員長

ありがとうございました。前回の委員会での意見等を踏まえて、最新の答申案が示されました。

答申案に対する意見の提出の期限も決まっており、会議でまとめきれない部分については、委員長、副委員長にご一任させていただく形となります。

委員の皆様の意見を答申に反映させ、ご確認いただき、その内容にご異議がなければ、その内容を答申という形で提出する流れとなります。そういう進め方で宜しいでしょうか。

意見なし

○柳澤委員長

まとめ方については提案させていただいた方法で答申案をまとめていきます。

それでは、答申案について議論させていただきます。皆様にご発言いただきたいので順番にご意見をお願いします。

○山本委員

特に意見はないのですが、障がいのあるこどもに対して、今後柔軟に対応できる方法を考えておいた方が良いのではないかと思います。

○木村元彦委員

23 ページの小中一貫校の施設について、「施設一体型」または「施設併設型」での整備を進めていくと書いてありますが、「施設一体型」が基本的に中心になるので、「施設一体型」が中心と書いておいた方がよいと思います。並行して二つ書いてあると、どちらになるのかわからなくなるので、書き方を工夫した方がよいと思います。

細かい点ですが、「児童生徒」と「子供」という言葉の使われ方が混ざっているので統一した方がよいです。学校教育については「児童生徒」で統一した方がよいと思います。

合意形成プロセスは重要な点だと思いますが、課題への対応の記載が簡素な書き方となっているので、もう少し丁寧に記載した方がよいのではないのでしょうか。中学校区でやるのか、自治会連合会単位でやるのかなど、課題をこういう形で解決したいということを、市民に伝わるように書いた方がよいと思います。

今後、市民への説明があると思いますが、それだけではなく、市内の小中学校の教職員向けにも説明をしっかりとした方がよいと思います。

小中一貫とするのが目的ではなく、こどもたちに対する教育が充実してくると伝わる様にする必要があると思います。

最後に、学校再編は小田原市の大型プロジェクトだと思っています。資材の高騰等を含めて費用が膨れ上がる可能性があり、その結果、絵にかいた餅にならないように、第三者によるチェック機能を、答申案を出した後に作っていただきたいです。

○事務局

施設一体型について、また「児童生徒」と「子供」の標記については確認のうえ修正等行います。

合意形成については、具体的な手法や課題、公になった際の目的と手段の明確化について、目的と手段がきちんとわかるよう検討していきます。

チェック機能については、老朽化状況も含めて何らかの進捗管理が必要だとは認識していますが、それを基本計画に盛り込むかどうかは検討とさせていただきます。

○石井委員

第5章の新しい学校づくりに係る費用と財源の考え方は、非常に注目度が高いと思います。そのグラフと表の扱いについて、P52の整備費が2倍になったというグラフの意味付けが分かりにくいです。表の間に1校あたりの整備が入ると読み取りづらい気がします。

1校あたり整備費の比較について、整備費とは何を指すのか。「改築」と「長寿命化改修」の意味合いがどう違うのか、初めて見るひとは解らないのではないのでしょうか。

総整備費の現状維持というのは、現状の36校を維持するということでよいのでしょうか。

イラストの小中一貫教育について、ミカン狩り学習や中学校の先生が理科の実験授業をしてくれたというのは、小中一貫のイメージと結びつき易いが、地域での学習や英語の授業は小中一貫教育のイメージと結びつきにくい気がします。

○事務局

5 章の図は分かりにくい点もあるので、文言による説明を入れさせていただきます。

「改修」、「長寿命化改修」については1 ページに注釈で定義をしていますが、5 章だけを見ると分かりづらいためわかるように検討いたします。また、「現状維持」とは現在の小中学校を全て維持した場合です。

24 ページのイラストは、小中一貫だけでなく、小田原市の教育のイメージをイラストとして表したものです。分かりづらいという事実なのですが、なかなか対案がないところもあるため、構成等でより良い方法を検討します。

○柳澤委員長

コストのグラフについては、初見だと分かりにくいと点もあると思います。

「改築」と「大規模改修」については、改築の方が多いと思いますが、どちらにするかの根拠は、個別のデータを見ないとわからない部分があります。

○中谷委員

54 ページ、総整備コストについて、改築と長寿命化改修のグラフの中に小学校と中学校の整備コストがありますが、必要あるのでしょうか。

全体的に情報量が多い答申案なので、市民が見たときに、分かりにくいのではないのでしょうか。

答申案として十分なものができたと思っていますので、今後はこれを早く実行してほしいと思います。後回しにしてしまうと、再度考え直す必要が出てしまうのではないのでしょうか。

○事務局

48 ページの整備スケジュールに、考え方を整理して再掲されています。このような考え方に基づいてスケジュールを設定し、これに基づいてコストを計算し、グラフを作成しています。長寿命化改修の学校については、増築の費用が発生することも考慮して、計算していますが、情報量が多いが点については検討させていただきます。

○中谷委員

細かいところになりますが、2 列にする必要があるのかが疑問点です。分かりや

すさ重視の方が良いのではないかと思います意見させていただきました。総整備コストの比較という題目であれば、左の列だけで良いかと思います。

○木村秀昭委員

良くまとまったと思っています。

付帯意見の中に今後の時期についてのまとめが書いてありますが、67 ページの事業スケジュール（案）の下に、令和8年度の事業の公表時期を入れていただけるとありがたいです。遅れるほど地域は疑心暗鬼になります。公表時期に、なるべく早く進めるというのを入れると良いかと思います。

○事務局

67 ページは、令和8年度は準備期間ということで、令和9年度から事業化を目指すことを考えています。それを踏まえ、時期について加筆し、明確な時期について記載できればと思っています。

○富田委員

全体的には、短い期間で修正していただき良いものになったと思います。

一点、気になった点として、23 ページの図3-3、カリキュラムイメージですが、2段目がグラデーションされているのに対して、それ以外は小4と小5、中1と中2の線もはっきりしているため上の段、3段目もグラデーションにした方が個別最適な学びというのに繋がるのではないのでしょうか。

○柳澤委員長

小4、小5、中1、中2の間に明確に線が入ってしまうと、その区切りで環境ガラッと変わるイメージになるため、もう少し段階的にした方がいいのではないかとのご意見です。事務局いかがでしょうか。

○事務局

将来的には義務教育学校を目指すとしていますが、今はまだ4・3・2といった段階の議論をしている訳ではないため、いただいた意見を参考に、線やグラデーションについても検討いたします。

○久田委員

全体的によくまとまっていると思います。

見せ方の点で、全体的に色々な色が使われていて、各図表で何が言いたいのか伝わりにくくなっているのではないかと思います。全体的に、色を絞って、メリハリをつけ、この色はこういう意味合いで使うというのをルール化すると分かり易くなるのではないのでしょうか。

○柳澤委員長

具体的に、ここの絵がとか、この図がとかはありますか。

○久田委員

特に 19 ページは気になりました。グラフ等は、意味があって色分けされていると思いますが、19 ページの図は、区切るために色が使われている感じがしました。

○柳澤委員長

19 ページは、色が多いため、大事なもののだけ絞って色を使っただけだと思います。

○遠藤委員

事務局の皆さん、かなり労力のかかる作業をしていただきありがとうございます。全体を通してよくできていると思います。

細かな点として、4 点申し上げます。

49 ページと 67 ページに整備スケジュールと事業スケジュールがありますが、まず 49 ページに整備のスケジュールがあり、これは各地域、学校単位で今後どう動いていくかのスケジュールで、これに基づき庁内で予算取りをしたり、地元の対応をしたりするための時間軸の根拠だと思います。ピンクの線で、協議・移行期間が 6 年設定されていますが、「改築」が 1 年、「長寿命化」が 2 年なのは理由があるのでしょうか。1 年で良いのなら統一した方が良いのではないのでしょうか。

67 ページの事業スケジュールは、市役所や教育委員会が建替の事業全体を推進していくためのスケジュールということでよろしいのでしょうか。1 期、2 期、3 期と分かれていると、整備スケジュールと混同する可能性があります。

3 つ目に、整備スケジュールと事業推進のスケジュールの他に、合意形成のスケジュールが必要だと思います。地元としては、合意形成の時期がいつなのか、本格的に動くのはいつなのか分かったほうが良いと思います。

また、この整備スケジュールに現れないスケジュールというのがあるのではないかと思います。例えば、三の丸小学校は、2038 年からですが、それまでの 10 年間、全く何もやらないわけではないと思います。三の丸小だけではなく、10 年程度スケジュールに記載がない学校がありますが、こうしたところも、防災やまちづくりなどに関する議論を行った方が良いと思います。

そういう点を、基本計画の中で指摘するか、付帯意見の中で指摘するかの方が良いと思います。

4 つ目は、今話した見えないスケジュールを、下準備のための期間として、何らかの形で明確にする必要があるのではないのでしょうか。

○事務局

最後にお話された三の丸小は、着手までに 10 年あり、通常の維持管理等は行っていますので何らかの文言を入れさせていただきたいと思います。また、67 ページは事業全体のスケジュールということになります。計画開始前の令和 8 年度から 1 期前半にかけては、教育委員会においても小中一貫教育の方針等を検討することが想定されます。

1 期、2 期、3 期のパターンについては、誤解を招く可能性があるので、表現について検討いたします。

49 ページの整備スケジュールについて、48 ページに前提条件があり、改築は、基本設計 1 年、実施設計 1 年、外構含む工事 4 年、の 6 年間としています。長寿命化改修についても、基本設計 1 年、実施設計 1 年、外構含む工事 3 年、の 5 年間を設定しています。それを踏まえて、協議・移行期間のピンク色の線ですが、再編が完了するまでに、関連する学校について協議するということにしています。今からスケジュール全体に修正を入れるのは難しいので、何らかの形で注釈を入れるようにいたします。

○柳澤委員長

基本設計までに協議期間が 1 年のものと 2 年のものがあります。また、27 年から改築設計がスタートしている小中一貫校では協議・移行期間がなく、改築設計がスタートしているというスケジュールになっていますが、これはもう今年度から協議が進んでいるということでしょうか。

○事務局

白山中に限って申し上げますと、2 段階の施設整備を想定しており、最初に中学校部分を改築した上で、少し時間を空けて小学校部分を増築し、その間に対象校の協議が入るといような建付けになっています。その他、協議が 1 年や 2 年の点については見直しが入ると思いますが、整理している状況です。

○遠藤委員

「改築」や「長寿命化」の期間とともに、「協議・移行期間」はそれよりも少しだけ先行して始まり、その先行している期間が 1～2 年の差はありますが、その点はケースバイケースの対応ということで理解しました。

地元がこれを見たときに、ピンク線のところから本格的に事業が始まると認識すればよいという理解でよろしいでしょうか。

○柳澤委員長

本計画のスケジュールが公開されると、不満点が出ることもあるかもしれません。先送りになるところは何十年も先なので、早く進めてほしいという意見も出てく

るかもしれません。

確かに、スケジュールでは何もやらない期間がある学校も、先行している学校がモデル校となり、それを参考に課題やフィードバックできることも出てくると思います。PDCA サイクルのような形で計画を進めていく形になるのではないかと思います。

○中谷委員

一点確認なのですが、泉中学校が小中一貫校となっても継続するような表現となっているのは問題ないのでしょうか。

○事務局

泉中、白山中は始めに中学校部分を改築し、小学校の統合時期に合わせて小学校部分を増築するという対応を行う予定です。そのため小中一貫校となるまで継続する表現となっています。

○中谷委員

泉中は統合しても継続するような表現になっています。

○事務局

確認し、修正します。

○柳澤委員長

竹内委員と内山副委員長の意見の紹介をお願いします。

○事務局

【内山副委員長】

・70 ページの進捗管理、評価等について、もう少し技術を充実させた方が良いのではないのでしょうか。

・児童生徒への配慮について、付帯意見として、新しい学校がスタートするにあたり、環境等への変化があるため、十分な配慮を行うと明記した方が良いのではないのでしょうか。

・環境の更新と同時に、教職員の意識改革、マインドセットの転換についても記述が必要ではないのでしょうか。

【竹内委員】

・より良い学習環境にするために、効率的に学習できる空間を作ることが求められると思います。

・給食等の検討は今回の委員会では検討していないため、それらの検討も重要になるのではないのでしょうか。

・整備指針で新しい学校は Nearly ZEB を目指すとしていますが、時代の変化を考慮すると、将来的には ZEB を目指していくべきだと思います。

・基本計画とはズレますが、現存の学校もまだ使い続けるため、それらについての修繕も抑えて長い目で見る判断をしてほしいです。

○柳澤委員長

スケジュール感について、学校によっては、20 年後に出来る場合もあるので、あまり間が空くと、小田原市の計画として先送りのイメージがつくのは良くないと思います。完全な校舎の改築は後でも、現状の環境改善などできる部分は行って、基本計画の理念に近づけることが大事だと思います。

先行する学校から課題や今後フィードバックできることが出ると思うので、その都度、計画をバージョンアップできると良いと思います。

他にご意見ありますでしょうか。

意見なし

○柳澤委員長

皆様から出た意見を基に改善していきたいと思います。

それでは、議事（１）は終了といたします。

続いて、議事（２）今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

資料１－２ 答申案の 67 ページをご覧ください。前回委員会でもご説明した通り、令和 8 年度は教育委員会と市長部局において、事業全体において検討・調整が必要な事項について協議を進めてまいります。まずは、答申手交後、早急に市長に本答申の内容について報告、市長部局とも共有し、検討体制を整えた上で、検討を進めていく予定です。

本委員会の委員の任期は、令和 8 年 3 月末まで、臨時委員の任期は、審議事項が終了するまで、となっております。本答申をもって、本委員会は一先終了とさせていただきますが、基本計画の公表、地域との検討の段階においては、説明会やワークショップ等を実施してまいります。その際に、委員の皆様にはアドバイザーとしてご出席いただくことも想定されますので、その際はご協力くださいますようお願いいたします。

説明は以上です。

○柳澤委員長

答申後の流れについて説明がありました。検討委員会としては、今回が最後となります。今後は市庁部局を含めた検討や調整のフェーズに入ることです。
最後に皆様からコメントをいただきたいと思います。

○山本委員

専門家ではないのでついていけない部分もありましたが、学校について聞かれる場面が多い中で、段階を経て必要なことを行っていく流れや調整がなされていることが分かって良かったと思います。

完成までに、これほど時間がかかるとは思っていなかったため、学校ができるころにはインクルーシブという言葉はなくなり、みんなが周りを助けながら学習し、大人が少しサポートする世界になるのではないかという希望を持っています。

○木村元彦委員

27 回ということで、4 年余り経ったことになります。以前、総合計画審議会の中で、「学校づくりの推進」について議論していた際、「新しい学校とは、どのような学校を作るのか」という質問をしたところ、「検討委員会」を設立して、どうしていくかを検討するという回答だったため、この委員会に参加させていただきました。

初めはイメージが全くない中で、複合化や小中一貫等の意見を検討してきましたが、これほど時間がかかるということで、基本計画を作る上でも事務局はとても大変だったのではないかと思います。

先ほどもお話がありましたが、基本計画ができて、この先が大事だと思います。最初の学校ができた時に大きな反響があると思うのでそれに合わせてその先を進めていけたらよいのではないかと思います。

小中一貫教育を進める中で、やはり中身が大事なので、中身を充実させていければ良いと思います。

○石井委員

本年度から出席し、これまでの議論を十分に理解できていなかったかかもしれず、申し訳ありません。その中で意見を言わせていただきました。

学校の現状をお伝えする立場で参加しましたが、教育の今後に向けても大事ですが、今の課題も含めて話せたのではないかと思います。

今後、こどもたちが過ごす場としてより安全な学校になることを期待しています。引き続き、今の学校にも配慮いただければと思います。

○中谷委員

2 年間お世話になりました。私も第 12 回から参加し、立場は P T A だったので、保護者目線の意見を求められたかと思いますが、職業柄、お金の部分に対して目が

行くことが多かったかと思います。

これだけコストがかかるのであれば、コストを圧縮できるというのは小田原市としても非常に良いことだと思っております。

非常に良いものが出来上がったと思いますので、今後は早めに実行していただきたいというのが率直な意見です。

保護者の意見としては、変化を嫌う傾向があります。計画がたとえ良いものでも否定的な意見は出るとはありますが、本計画はとても良いものだと思っておりますので、自信をもって対応していただけると良いと思います。

皆様がおっしゃる通り、これからが大切だと思うので、引き続きお願いいたします。

○木村秀昭委員

答申がまとまりましたので、地域との関係がどうなるかをできるだけ早く公表していただきたいです。

地域の意見を聞くと、「私の学校は富士山が見えるので残してほしい」といった意見もある中で、これからが大変だと思いますが、きちんと説明を行い進めてもらいたいと思います。

ありがとうございました。

○富田委員

今年度1年間のみ参加させていただきましたが、皆様の立場によっていろいろな意見があるのだと勉強になった会でした。また、改めて今の学校の課題や今後の教育が果たすべき役割を自分自身が確認する場にもなったと思っております。

私の立場としても、現状の環境をさらに充実させていけるように取り組んでいこうと思っております。1年間ありがとうございました。

○久田委員

私も途中から参加でしたが、2年間ありがとうございました。

このような委員会には初めて参加させていただき、色々な立場の意見を聞くことができ、このような過程を経て計画ができていくことについて勉強させていただきました。

現在、変化の大きい中で子どもたちの学びの環境の重要性を改めて感じています。

この計画が進んでいくことを私自身も楽しみにしています。

○遠藤委員

事務局の皆様、委員の皆様ありがとうございました。

私は専門が都市計画で、「新しい学校づくり」の検討が始まる前の、「公共施設再編基本計画」から関わっており、計画当初から考えると10年関わっていることに

なります。

公共施設においても学校は重要であり、学校の基本計画ができたことは一つの大きな節目を迎えたのではないかと思います。

10年というのは、あっという間だと思います。三の丸小学校の再編は10年先だとなっていました、今日から連続した10年がありますので、引き続き官民連携して計画を推進していけると良いのではないかと思います。

市全体で小中一貫校の導入というのは大きな方針でもありますし、これからの小田原市の学校教育が良くなっていくことを期待しています。

○柳澤委員長

私も4年間関わらせていただきました。他の学校施設の基本計画に関わることも多いのですが、市全体の方針を決めるということはあまりなく、そういう意味では小田原市は先進的な試みを行っていると思っています。

私としても公共施設の再編の方が多いのですが、公共施設の多くが学校なので、学校が動かないと公共施設再編はうまく動かない部分が多いです。

他の自治体では他の部局が動くのに対し、学校関係が後ろ向きで、時期についても具体的に出してこないところが多いです。小田原市では逆に学校が先行し、他の公共施設が追いかける形となっているため、前向きな試みであり、中身に関しても新しい教育やいろいろなキーワードから新しい学校を作っていこうという姿勢で注目できると思います

課題は実際に実行できるかだと思いますので、具体的に地域に落としこみ、モデルとしての「新しい学校」を作っていければ、小田原市だけでなく全国的にも模範になるのではないかと思います。

実際に動かすとなると予算等、厳しい部分もあると思いますが、是非進めてもらいたいと思います。

少し前に私が関わった長野県の高校のデザインマニュアルがあるのですが、現在実装されて、先進的な学校づくりが進められています。今後、実装するための仕組みも重要になってきますので、実際に動かしていくためにどうしていくかがカギになるのではないかと思います。そのような点でもご協力させていただければと思います。

それでは予定していた議事は全て終了いたしましたので進行を事務局にお返しします。

○事務局

委員長、委員の皆様ご審議どうもありがとうございました。

最後に柳下教育長から挨拶させていただきます。

○柳下教育長

新しい学校づくり検討委員会は今回で最終回となりました。期間で言うと4年目に入っています。長い間ご尽力いただいたことに感謝を申し上げます。

大変重要で地域も興味津々であり、私の住んでいる地域でも、今後学校がどのようなになるのかと関心が高い内容です。

今回答申をいただきますが、内容としては、教育委員会として市長や市長部局、地域の方々にもしっかりと示したいと思います。

大切なのはその後となりますが、慎重に、周りの方々の意見も聞き取って進めてまいりたいと思います。

長い間ご協力ありがとうございました。感謝申し上げます。

○事務局

ありがとうございました、以上で第27回小田原市新しい学校づくり検討委員会を終了いたします。

ありがとうございました。